

まじは!!

「上にあるものを求めなさい」

「あなたがたはキリストと共に復活させられたのですから、上にあるものを求めなさい。そこでは、キリストが神の右の座に着いておられます。」

(コロサイの信徒への手紙 第3章1節・新約聖書363頁)

はじめに

パウロがコロサイ教会の信徒に送った手紙のテーマは「キリストを信じる者、さらには人間は何を土台にして生きればよいのか」です。動かぬ土台を持つことによって人生は揺るぎないものとされ、また信仰者はこの土台をより深く知ることによってさらなる平安と祝福を手に入れることができます。

「影」に惑わされるな

人間の生き方を不動にし、祝福に導く究極の土台について、パウロは「より深く知り」そして「上にあるものを求めよ」と勧めています。それは私たちの土台を崩そうとする多様な価値観、間違った教えが教会を侵食し始めたからなのです。そのため、他のものを土台とすることはもちろん、不十分であるかのように、他の考え方を付け加える必要もないと断言します。例えば「空しいだまし事の哲学」つまり様々な人生論は、「人間の言い伝え」「オカルト的なものも含むもろもろの霊力」に基づくものだから警戒するようにと教え(2:8)、「それらは実体はなく、影だ」(2:17)と言い切っています。

キリストとは

そして、私たちが土台とすべき実体「キリスト」とは誰なのかを教えるのです。

1:15～20は「キリスト賛歌」と呼ばれている部分です。それまで散文だった書き方が、ここでは韻文、つまり詩になっているからです。

「御子は、見えない神のかたち」「万物は御子により、御子のために造られた」「御子は万物

より先に存在し、万物は御子によって成り立っている」キリストは神であり、今もすべてを統べ治められているお方であり、そして、その御子キリストが「教会の頭」であって、私たちを贖い、神と「和解させてくださった方である」。何度読み返しても身震いするような内容です。私たちは主イエスをこのように理解し、告白すべきなのです。

上にあるもの

私たちはこの真理をより深く知ろうとしているのかとの問いかけと同時に、パウロはだからこそ、「求めよ」というのです。

そのためにはまず「地上に属するもの」を身につけているなら「捨てろ」(3:5～9)と言います。そして上を求めることによってもたらされる「実」、憐れみの心や自愛、謙遜、柔和、謙遜などが自分の生活に結ばれていくことを知るべきだと語ります。「上を求める」とは「野望を持つ」とか「高尚なことを考える」のではなく、神の領域にいることを自覚せよという意味です。私たちがキリストと共に復活させられ、天とつながっているから可能になった特権です。すでに天にいるかのように、自分の生活があたかも天であるような生活をしていく、そのことでパウロが言った「私はキリストを知ることのあまりのすばらしさに、それら(世の価値)を屑と考えています」(フィリピ3:8)との心境に到達していくのです。

【礼拝説教はスマホでも視聴できます】
右記のQRコードを読み取ってアクセスしてください。



今週の祈り

「あなたがたはキリストと共に復活させられたのですから、上にあるものを求めなさい。そこでは、キリストが神の右の座に着いておられます。上にあるものを思いなさい。地上のものに思いを寄せてはなりません。」(コロサイの信徒への手紙 3:1～2)

「御子は、見えない神のかたちであり、すべてのものが造られる前に最初に生まれた方です。…万物は御子によって、御子のために造られたのです。御子は万物よりも先におられ、万物は御子にあって成り立っています。…その体である教会の頭で



す。…その十字架の血によって平和を造り、地にあるものも、天にあるものも、万物を御子によってご自分と和解させてくださったのです。」(コロサイの信徒への手紙 1:15～20)

「私の主キリスト・イエスを知ることのあまりのすばらしさに、…それらを今は屑と考えています。」(フィリピの信徒への手紙 3:8)

神さま、どうぞキリストのすばらしさをより深く知ることができすように。またその栄光を実現できる特権が与えられている私が、それを求めているようにしてください。御名によって祈ります。アーメン。

深読みにチャレンジ！

箴言 (127) 第6章18節

*三つの違う訳を読み比べてみましょう。

◎協会共同訳 「悪だくみを耕す心、急いで悪に走る足」

◎口語訳 「悪しき計りごとをめぐらす心、すみやかに悪に走る足、」

◎新改訳 「邪悪な計画を細工する心、悪へ走る速い足、」

「急いで悪に走る」

体のすべての器官が憎むべき行為をしてしまう可能性があるのだと論じ、「目」、そして人をだましたり、悪に誘うことに用いられる「舌」、悪を実行する「手」と語られ、この節では悪だくみを耕す「心」、急いで悪に走る「足」が取り上げられています。耕すことは、農作業だけでなく、まじめに労働する姿をイメージさせます。多くの実りを得るために、毎日田畑に行って世話をしなければなりません。今は農耕機械が田畑に入って手作業の時代とは比べものにならないほど効率よくできるようになりましたが、それでも重労働です。台風が近づく時には被害をできるだけ抑えられるように努力しておられますし、天候などにも左右され、一日も欠かさず田畑のことを気にしておられます。÷だくみを耕す、とは一生懸命そして四六時中悪を働くために考えていることになります。それだけ心が

【神からの知恵によって生きる】

箴言はソロモンが語った知恵の言葉を中心に構成されています。31章から構成されていますが、あたかも短編を読んでいるかのように、種々雑多な知恵の言葉が連なっています。ソロモンが思いつくままに語った言葉を、そのまま筆記したのではないかと思えるほどです。

この書このような性格上、まとめて解説するのが難しいため、この欄で、一つ一つの言葉をじっくり味わいたいと思います。箴言から得る知恵によって、深みのある生き方を学び、よりよい人間関係を築かせていただきたいと思います。

- 1 父から子へ・受け継がれるべき知恵 (1:1～9:18)
- 2 生活の処方箋・知っておくべき知恵 (10:1～22:16)
- 3 先人からの知恵 (22:17～31:31)
 - a 知恵ある人の言葉 (22:17～24:34)
 - b ソロモンの言葉 (25:1～29:27)
 - c アグルの言葉 (30:1～33)
 - d レムエルの言葉 (31:1～31)

悪に染まりきっているのです。ですから、何か情報があると聞きつければ、急いで走ってそれを得ようとするわけで、だからこそ、巧妙に仕組まれた犯罪が発生するのです。そのアイデアたるや、悪いことではありますが、感心をしてしまうほどです。

もうかなり前ですが、週刊誌で「東京六大学出身ヤクザの大討論会」という企画記事が掲載されました。日本を背負って立つべき人材があく頭脳として極道たち牽引している、嘆かわしい現実があるのです。

聖書日課

毎朝、決められた時間に聖書を読み、お祈りをすることはクリスチャンの生命線です。この聖書日課を使って心の糧を欠かさないようにしましょう。そのために最低でも15分間を神との交わりのために聖別してください。

朝にどうしても時間のとれない方は、昼休みでも就寝前でもかまいません。ぜひ、実行してください。

【祈りの時の持ち方(例)】

- ①まず黙想し、次に、自分の心を神に向けるために賛美する。賛美曲を歌えない場合は、歌詞を味わう。
- ②御言葉を読み、自分へのメッセージが何かをさぐる。例えば、神の恵み、告白すべき罪、従うべき命令、ならうべき模範など。
- ③自分が神のメッセージにどうこたえるのかを祈る。感謝や信頼の表明、悔い改め、服従、献身など。
- ④自分の祈りだけでなく、できるだけ「祈祷課題」も祈る。

【月曜日】◆今週のすべての集会在祝福され、救いにつながるように祈りましょう。

箴言第16章15節「王の顔の光には命があり 王の厚意は春の雨をもたらす雲のよう。」◆パレスチナには、おおよそ年に二度の雨期がある。前の雨は秋に降り、耕作をしやすくする。そして春の雨は後の雨とも言って収穫を促す雨である。私たちには、神から植えられた種がある。ペトロは「朽ちない種、すなわち神の変わることはない生ける言葉」(ペトロ 1:23)と言っているのだが、王である神に心を向けていくなれば、その命を受ける者となり、一気に芽吹き、花が咲き、実が結ばれていくのである。主の御顔を尋ね求める者でありたい。

●賛美／327 ●祈祷課題

◆昨日、礼拝に集えなかった人が恵みからもれないように。

◆この教会も世界宣教の一拠点であることを自覚し、重荷を持って祈れるように。特に共産圏、イスラム圏伝道が進むように。迫害にある宣教師のために。現地語聖書の翻訳が進むように。異端からの救出が進むように。台湾活水泉の活動のために。

【火曜日】◆教会のビジョンのため、将来の働きが祝福されるように祈りましょう。

箴言第17章17節「友はどのような時でも愛してくれる。兄弟は苦難の時のために生まれる。」◆本当の友かどうかは、その人が逆境に陥った時にわかる。放蕩息子の子は、金目当てだった。金の切れ目が縁の切れ目で、息子が一文無しになったと知るやいなや、離れていき、誰も助ける者がなかった。ダビデの友、ヨナタンは、自分の命のようにダビデを愛した。自分の命をはって、父であるサウルの手から逃してもいる。また同様に、同じ信仰を持ち、兄弟姉妹と呼ぶ者たちも、互に祈り支え合うことにおいて、真価を発揮するのである。

●賛美／329 ●祈祷課題

◆日本福音同盟、日本福音連盟、聖化交友会、キリスト教各出版社、EHC、ケズィック、太平洋放送協会、F E B C、キリスト者学生会、日本国際飢餓対策機構、ワールド・ビジョン、いのちの水計画、総動員伝道、Hi-b.a.、日本国際ギデオン協会(聖書配布)、新生宣教団等の働きとスタッフのため。

【水曜日】◆宣教福祉事業が祝福されるように祈りましょう。

箴言第18章4節「人の口の言葉は深い水 知恵の泉から湧き出る流れ。」◆この箇所は人の言葉と知恵の言葉を対比しているようにも受け取れるが、そうではなく、人の言葉はため池のようにその人だけを満たしているのだが、濁っていて、はっきりとしていない。しかし、本当の知恵の言葉というのは、学者、権威者のような自己満足しているものからはもたらされず、誰にも神から与えられる無尽蔵の祝福を得ることができ、さらにそれを必要とされる多くの人たちに分け与えることができるのだと教えているように思う。私たちは泉を持っているか。

●賛美／330 ●祈祷課題

◆新会堂が与えられるように祈りましょう。①バス通りに面した場所に良い土地が与えられるように②十分な資金が与えられるように③早期に建てられるように

◆宗教法人を取得できるように

◆伝道の拠点が祝福され、用いられるように。(まきば、小山宮下事務所、向陽町)

【木曜日】◆弱っている方々、病にある方々のために祈りましょう。

箴言第19章4節「財産は友の数を増し 貧しい人は友から引き離される。」◆放蕩息子をイメージしてしまうが、ここでいう「貧しい人」は困窮している人ではなく、この人は羽振りがいいなと思ったら、その人にぶらさがるようにつきまとう人のことだ。つまり、そこから「富」を考えると、神からいただいた財産や賜物を自分のものにせず、惜しみなく還元していこうとする人を指していることがわかる。人の富を頼りにして受けることばかり考えているのではなく、神が富ませてくださるその富を与え続けていくことで、祝福される。

●賛美／331 ●祈禱課題

◆教会学校の成長と救い、青年の結婚、教会員の信仰の成長と家族の救いのため。

◆教会ビジョンのため（社会宣教事業、伝道所の開設、保養施設建設、会堂建築、納骨堂、宗教法人格取得、学生寮、高齢者住宅）、教会員から伝道者や献身者が与えられるよう、教会会計の祝福

【金曜日】◆礼拝出席平均が50名以上となり、受洗者が年間3名以上与えられるように祈りましょう。

箴言第20章4節「怠け者は冬の間に耕さず 刈り入れ時に求めても何もない。」◆箴言には、ありに学ぶようにとの御言葉もある。「怠け者」は、やるべき時に行動できず、機を逸してしまう。なぜできないのか。この「怠け者」とのヘブライ語が強調しているのは、何もやりたくないところごろしているというよりも、自分の興味のあることに目が奪われて、やるべきことをやらない姿だ。実は、「怠け者」は「偶像」に関係している言葉だ。自分の好き勝手に生きようとして、心が神から離れてしまうなら、目標を失ってしまい、祝福を受け損なう。

●賛美／332 ●祈禱課題

◆この教会に聖霊の著しい働きがもたらされ、リバイバルが起こるように。常に新来会者が与えられ、求道者、受洗希望者がもたらされて、教勢が祝福されるように。

◆土屋牧師、淳子師（牧師一家）、思乃扶師、石出師の働きのために。

◆老齢の方、病の中にある方々のいやしのために。

【土曜日】◆聖日に備え、健康が保たれ、出席しやすい天候が与えられるように祈りましょう。

箴言第21章1節「王の心は主の手の内にある水路。主は御旨のままにその方向を定める。」◆この世には様々な支配者、権力者が存在し、それらの人物は、すべてを自分の手中に治めているかのようにふるまう。だが、この世界は神が治めておられる。この権威を認めなければ、人間は謙遜を失い、やがて衰退していく。水の流れは逆らうことはできない。人間にはそのような力がないのだ。私たちは、「自分」という国を治めている王である。とするならば、私たちも逆行などできないことを認め、神に対し権威の譲渡を表明すべきである。

●賛美／333 ●祈禱課題

◆子どもを含め、すべての人が礼拝を守れるように。あらゆる集会在祝福され、参加者が御言葉によって取り扱われるように。奉仕者が恵まれてご用にあたれるように。

◆ホームページが用いられるように。また礼拝動画が用いられるように。教会から出している週報や印刷物が用いられるように。

【日曜日】◆新来会者が起こされるように祈りましょう。

箴言第22章6節「歩むべき道に応じて若者を訓練せよ。そうすれば年老いてからもそれることはない。」◆その家庭によって教育方針は異なるものの、親の立場からすれば、子どもに期待するのは当然で、将来のためにこうしたい、ああしたいと考える。だが、ある程度の年になったら、関与する度合いを減らし、自分の思いではなく、その子がどのように生きるべきかを子どもの立場になって判断すべきだろう。新改訳では「若者をその行く道にふさわしく教育せよ」とある。教育は親の工ゴであってはならない。

●賛美／335 ●祈禱課題

◆この教会に連なるすべての方々が聖日礼拝を厳守できるように。聖書通読を続けられるように。御言葉を味わえるように。祈りに励めるように。ささげる恵みにあずかれるように。積極的に神さまから受けた恵みを語れるように。

◆受験生、就職活動者、試練にある者のために。



おやこでせいしょ

●きょうのせいしょ

【れつおうきげ 18:1～7】

「ヒゼキヤおう」

(れつおうきげ 18:5)

ユダ おうこくの おうだったアハズは かみさまをしんじず、また したがいがもせず、かえって かみさまが にくむ けがれた ことを すすんで やっていました。かみさまでない ぐうぞうを おいて、その かみの さいだんで、こどもを いけにえにすること さえ やっていたのです。ユダのくには どんどん かみさまの しゅくふくを うけられずに ころろが よわっていきましました。

どうなるのだろうと だれもが おもっていたときに、アハズがしんで つぎに おうになったのが その むすこの ヒゼキヤでした。

ヒゼキヤは ちちおやの アハズとはちがい かみさまに ちゅうじつに したがおうとしたひとでした。せいしょには「ヒゼキヤのように かみさまを たよりにしていたひとは いままでにもいなかったし、これから も あらわれない

と かかれているほど、かみさまを かたく しんじ、かみさまを はなれず、かみさまの みこころに したがって あゆんだのです。ですから、そんな ヒゼキヤを かみさまは しゅくふくし、「むかうところ てきなし」、かみさまがともにいて、むてきにしてくださったのでした。

あるとき、おおきなくにである アッシリアがせめてきました。きたのくには すべに ほろぼされていました。そして、たいぐんを ひきいてきた しれいかんが いいました。「わたしたちは いままで、そのくにが しんじる かみさま もろとも そのくにを ほろぼしてきた。あなたたちも こうふくしなければ、そのように あなたがしんじる かみさま といっしょに ほろぼしてしまうぞ」

ヒゼキヤは その おどしを ききながら、かみさまに いのりしました。すると、18まん5せんにんもいた アッシリアの へいたいがか いちにちのうちに みんな しんでしまったのです。かみさまは そのちからを あらわし、かみさまをしんじる ひとたちを たすけられたのです。

●かんがえてみよう

☆ヒゼキヤは どのような おうさまでしたか。(18:3)

☆ヒゼキヤが おうさまになって すぐに どのようなことを していますか。(18:4)

☆ヒゼキヤは どのようなことを ほめられていますか。(18:6)



なむ聖書

もじ独

あいているマスに、右の9文字のどれかを入れます。タテ列（9列あります）、ヨコ列（9列あります）、太線で囲まれた3×3のブロック（それぞれ9マスあるブロックが9つあります）のどれにも9文字のいずれかがはいりますが、文字が重なってはいけません。数独と同じ要領です。

ただしいことをある

	と	だ	い		こ	を	し	
	す		を		し	だ		る
	を		る	だ		と	こ	
		た	と			す		い
		る		し	た	こ		を
								し
い			た		を		す	だ
だ	た					い		
を	こ	し	だ		い	る		と

ことばあそび

今週の聖書箇所の中に出てくる言葉です。それぞれを並び替えると意味が通る言葉になります。答えてください。

- ① しゅんたふね
- ② ぞうあらしえ
- ③ ちきゅうせ
- ④ してきな

まちがいさがし

3つあるよ!さがしてね





牧師の 聖書 ななめ読み

「トランプ支持者」

トランプ大統領を強力に支持する団体の一つに「福音派」と報道される教会があります。何度もお伝えしていますが、この「福音派」は日本で呼ばれている「福音派」とは全く違います。

強烈な保守派で、聖書に書かれている通りに生活することを教えられています。「えっ。そうじゃないの?」と思われるでしょう。そうです。私たちは聖書の御言葉を生活の規範とし、それを信じ、従っているのですから、間違いではないと思ってしまう

のですが、「根本主義」といって、聖書の解釈を文言通りにとらえてしまうのです。そこに何が起こるのかというと、「真意のずれ」です。

例えば「イスラエル」の扱いは全く違います。私たちは「イスラエル」は「神の選ばれた民」そして「神を信じる教会」の象徴としてとらえます。ところが、アメリカの福音派は、文字通り、現在ある一国家としての「イスラエル共和国」と考えているのです。聖書の教えの基盤を崩壊させるような立場です。このことを、信仰があるのかないのかわからないトランプ氏が利用し、イスラエルの肩を持つことで、「福音派」を喜ばせ、支持をとりつけている。だから、イランとの戦争が始まり、その暴挙を歓迎することになっているのです。

聖書ふれあい街歩き

●エイラト

以前、エツヨン・ゲベルを取り上げたことがあります。ユダヤは地中海に面していて海上貿易をすることができたのですが、良港を持ち合わせておらず、それほど盛んではありませんでした。しかし、紅海に接する場所を自らの領土として保つことで、東洋との貿易が開かれていたのです。今はエジプトのスエズ運河で地中海と紅海がつながっていますが、当時はありませんから、遠くアフリカ南端の喜望峯を回ってくるしかありません。ですから、ソロモンはこの地の利を生かして、地中海と紅海を結びつけた貿易事業を展開し、大いに富むことができたわけです。その拠点となった港町がエイラトです。

しかし、聖書ではエイラトと同じ位置でエツヨン・ゲベルと呼ばれている場所が登場しているのです。この二つの町がまったく同じであったかということ、どうもそうではなさそう。

というのも、申命記2章8節に「私たちはセイルに住む兄エサウの子孫のもとを去り、アラバの道、エイラトとエツヨン・ゲベルを離れた」とあり、列王記上9章26節には「ソロモン王は、エツヨン・ゲベルで船団を編成した。そこはエドムの地にある葦の海の岸边エイラトの近くにあった」とあるからです。

ななめ聖書 先週のこたえ

だ	き	か	よ	く	ら	る	な	は
ら	な	く	き	は	る	よ	か	だ
は	よ	る	な	だ	か	ら	き	く
き	く	だ	ら	な	は	か	る	よ
か	ら	な	だ	る	よ	く	は	き
る	は	よ	か	き	く	な	だ	ら
よ	る	ら	は	か	き	だ	く	な
な	か	き	く	よ	だ	は	ら	る
く	だ	は	る	ら	な	き	よ	か

- ①きていのやまい
- ②みをあらう
- ③かしんたち
- ④しんげん



ローマに向かうパウロ

しかし、フェストゥスはユダヤ人に気に入られようとして、パウロに言った。「お前は、エルサレムに上って、そこでこれらのことについて、私の前で裁判を受けたいと思うか。」

パウロは言った。「私は、皇帝の法廷に出頭しているのですから、ここで裁判を受けるのが当然です。閣下もよくご存じのように、私はユダヤ人に対して何も悪いことをしていません。もし、悪いことをし、何か死刑に当たることをしたのであれば、死を免れようとは思いません。しかし、この人たちの訴えが事実無根なら、誰も私を彼らに引き渡すことはできません。私は皇帝に上訴します。」

そこで、フェストゥスは陪席の人々と協議してから、「皇帝に上訴したのだから、皇帝のもとに出頭するように」と答えた。

(使徒言行録25:9~12)



フェストゥスとアグリッパの前で

【皇帝に上訴します】

「裁判の場所をカイサリアからエルサレムに変更して続けるか」とのフェストゥスの問いは明らかにユダヤ人たちにおもねった言い方でした。

エルサレムでの裁判は、主イエスの例でも明かで、ユダヤ人主導で行われますから、偽証人を立てたりして、いくらでも有罪を操作できる環境でした。それ以前に、カイサリアから出たタイミングで暗殺を計画していたわけで、それはフェストゥスも、そしてパウロも承知していました。

追い詰められたパウロでしたが、そこでパウロの心に、アントニア要塞の留置所にいた夜に語られた主の言葉が響いてきたのではないかと想像します。「勇気を出せ。エルサレムで私のことを力強く証したように、ローマでも証しをしなければならぬ」(23:11)。パウロはフェストゥスに向かって言いました。「私は皇帝に上訴します」。

日本の裁判では「地方裁判所→高等裁判所→最高裁」という三審制があり、判決を不服とした場合、上級裁判所に訴えることができます。そして最終的には最高裁判所が判決を言い渡し、結審します。当時のローマ帝国では皇帝に上訴する道がありましたが、これはユダヤ属州の裁判では不服だから、ローマで裁判を受けたいというような「一段上の裁判所」に上訴したのではなく、属州の総督が受け持つ裁判事件ではなく、この裁判の裁判権を皇帝に移して、裁いてほしいという要求でした。

考えてみると、非常に大胆な発言です。総督に向かって「あなたのもとでは公正な裁判を受けることはできない、皇帝にさばいてもらいたい」と言うわけですから、フェストゥスはおもしろくな

かったでしょう。しかし、公の場での発言です。無視できませんから、「陪席の人々と協議」してから、皇帝への上訴を認めます。

ですから、この上訴は誰でも簡単にできたわけではありません。ローマ市民には、皇帝に訴える権利が一定の場合認められていましたが、特に属州では、基本的に総督が裁判権を持っているため、総督が認めなければ上訴できなかったのです。ですから、法務担当の側近と問題がないか協議をして認めたわけです。

これはあらかじめ神が用意されたローマへの道の始まりになりました。

あの留置所で「ローマに行くのだ」と言われたとき、私であれば、「そう言われても、こんな状況でどうやっていくんだ」と戸惑います。パウロも似たような思いだったと思います。ところが大隊長リシア、総督のフェリクスやフェストゥス、そしてユダヤ人たちの思惑を利用して、神はパウロをローマへと押し出したのです。

パウロはコリントの信徒に送った手紙の中で、「私たちは肉において歩んでいますが、肉に従って戦っているわけではありません。私たちの戦いの武器は肉のものではなく、神から与えられた力であって、砦を破壊することさえできます。私たちは、さまざまな議論を破り、神の知識に逆らうあらゆる高慢を打ち砕き、あらゆる思惑をとりこにしてキリストに服従させ、また、あなたがたが十分に服従したとき、不従順な者をすべて罰する用意ができています。」と記しています(コリント二10:3~6)。神の道とは、神がすべての「思惑をとりこにして」作られ、歩ませてくださるものなのです。

キリスト教まるわかり Q&A

◆何もわからないのですが。

必要なものはお貸しし、一つずつお教えます。また信仰の強要はいたしません。

◆礼拝とは何ですか。

私たちの悩みは神から離れていることに原因があります。礼拝で神を賛美し、祈り、御言葉を聞くことにより、人間のあるべき姿を取り戻していく、それが礼拝です。

◆献金とは何ですか。

神への献身を表すもので、お布施や聴講料、会費ではありません。本人の意志に任されており、あくまでも自由です。趣旨のわからない方はなさらなくても問題ありません。

◆聖餐式とは何ですか。

信仰告白をし、洗礼(バプテスマ)を受けておられる方のみになりますが、主イエスと共に生きていることを確認する儀式で、聖別された

パンとぶどう液をいただきます。

◆信者になるにはどうしたらいいですか。

自分の意志で主イエスの福音を信じ、洗礼を受けることにより教会員(信者)と呼ばれます。

◆キリスト教会は様々な教派があります。

大きく分けてカトリック教会とプロテスタント教会があります。プロテスタント教会は、設立された時代や地域、歴史的な背景によって成立が異なるため、多くの教派がありますが、憎み合っているのではなく、互いの特色を認め合い、助け合っています。

◆にせのキリスト教会がありますか。

キリスト教の枠組みからずれている教えについて、私たちは異端と呼んでいます。代表的な団体には「エホバの証人」「モルモン教会」「世界平和統一家庭連合」などがあります。特に韓国系キリスト教活動にはお気をつけください。お困りの方は牧師までご相談ください。

2026年教会暦・年間行事

(#はその年によって変動します)

「教会暦」はキリストの生涯をたどりながら1年を過すために作られました。当教会では教会暦に、継承されてきた伝統的記念日を加え、守っています。

顕現節(1/6～#2/17)

降誕日(12/25)から12日後に東方の博士がキリストを礼拝した顕現日(1/6)から始まります。降誕されたキリストが世界の救い主であることを覚えて過ごします。顕現節の最終主日は受難の整えをされた変貌のできごとを覚え、変容主日(#2/15)として守ります。

四旬節(#2/18～#3/28)

前年に使用したしゅろの枝を灰にしてかぶり悔い改めを表した儀式(この教会では行いません)、灰の水曜日(#2/18)から始まります。レントとも呼び、主日を除いた復活日前日までの40日間、キリストの受難を覚えて過ごします。

四旬節に続く受難週(#3/29～4/4)は、主イエスの最後の1週間を覚える週で、エルサレム入城に際し、しゅろの枝を用いて歓迎したしゅろの主日(#3/29)から始まり、洗足と主の晩餐が行われた木曜日(#4/2)、十字架にかかれた受難日(#4/3)と過ごしていきます。

復活節(#4/5～#5/23)

キリストが死にかけて復活されたことを祝うイースター(復活日・#4/5)から始まります。春分の日からの最初の満月の次に来る日曜日と定められているので、祝日が毎年変動します。40日後のキリストの昇天(#5/14)を迎えたのち、復活節の最終主日(昇天主日 #5/17)となります。

聖霊降臨節(#5/24～#11/28)

復活日から50日目、聖霊が使徒たちに降ったことを記念する聖霊降臨日(ペンテコステ・#5/24)から

始まり、三位一体主日(#5/31)では父、御子、御霊の働きを告白し、過ごします。最も長い節期となります。

待降節(#11/29～12/24)

救い主キリストの誕生を祝う備えをしながら、待ち望むアドベント(待降節)は、11月30日に一番近い主日から始まります。降誕を祝うクリスマスは12月25日ですが、クリスマス礼拝(#12/20)は、25日以前の日曜日を選んでをささげています。

降誕節(12/25～1/5)

イエス・キリストの誕生を祝う日(12/25)から始まり、顕現日前日までの期間を指します。

【記念日】

母の日(5/10・5月第二)
ウェスレー回心記念日(5/24・1738年)
花の日(子どもの日・6/14・6月第二)
父の日(6/21・6月第三)
ホーリネス弾圧記念日(6/26・1942年)
宗教改革記念日(10/31・1517年)
収穫感謝日(11/22・11月第四)

【当教会行事】

新年元旦礼拝(1月1日・木)
成人祝福礼拝(#1/11・1月第二)
聖書愛読週間(#3/22～28)
みふみの日(3月23日)
教会創立記念礼拝(3月最終主日/創立記念日3/29)
最後の晩餐集会(#4月2日夕)
召天者記念合同礼拝(#6/14・6月第二)
弾圧記念礼拝(#6月28日・26日前後の主日)
石出忠師記念礼拝(#7月5日・7月第一)
敬老祝福礼拝(#9/13・9月第三)
子ども祝福礼拝(#11/1・11月第一)
クリスマスイブ礼拝(12月24日夕・木)

教会紹介

●歴史

私たちの教会は、ジョン・ウェスレーを源流とするメソジスト(青山学院、東北学院など)の信仰を継承しており、メソジストの教職であった中田重治が1901年に創立したホーリネス教会の信仰を受け継いでいます。2022年3月27日に創立いたしました。

●教義

旧新約聖書66巻を誤りない神の言と信じ、唯一の正典として信仰生活の規範にしています。また三位一体の神を信じ、イエス・キリストによる以外に救いがないことを告白しています。特色は、下記に紹介する四重の福音を強調していることです。

【四重の福音】

四重の福音は、長老教会の牧師A. B. シンプソンが提唱したものを、ホーリネス教会の創設者中田重治が自らの信仰に基づいた理解を加え、福音宣教の際に掲げた教えです。

人間の幸せは神と共に生きることで実現するのですが、神を認めず生きているため、むなしく日を過ごしているのが現実です。しかし、イエス・キリストが十字架によって神と人との絆を回復してくださったのです。これが福音です。この福音を信じることで、人間は本来もっていた真の幸いを覚えながら、充実した人生を送れるのです。

中田は、聖書に書かれてあるこの福音をわかりやすく語るべく、前述の提唱にある新生、聖化、神癒(しんゆ)、再臨(さいりん)の4項目に基づいて、以下のようにまとめました。

◆**新生** キリストの十字架と復活を信じ、新しく生まれ変わる。これにより、天に住まう者のように、日々喜びが与えられる。(コリントの信徒への手紙 2:5:17 など)

◆**聖化** 神に属する者であるとの自覚が与えられたことで、自己中心に生きていた心が砕かれ、同時に神中心の生活を求め始め、神のきよさに近づくこと。(ガラテヤの信徒への手紙 2:19 ~ 20 など)

◆**神癒(しんゆ)** 肉体を持っているがゆえに弱る私たちが、神のあわれみにより、病い、そして死の恐怖にも打ち勝つ力が与えられ、苦しみから解放されること。(出エジプト記 15:26 など)

◆**再臨(栄化)** キリストが再び地上に来られること。その時、死んだ聖徒たちは復活し、生ける信徒は死を経験せずに天に挙げられる。(コリントの信徒への手紙 1:5:51 など)

教会の信条

さがみはら 相模原ホーリネス教会は以下を信条として掲げています。

わたし 私たちはイエス・キリストを救い主として信じています。

主イエスは、「神の国は近づいた。悔い改めて福音を信ぜよ」と宣言されてから約3年間、人々にその教えとみわざを通して神の国の恵みを明らかにされ、そののち、私たちの罪を負って、十字架にかかれ、あがないを成し遂げ、神の国にはいる救いの道を開かれました。

この主イエスの救いへの招きに応じて神の国に属して生きる者となった私たちは、聖書が終末と示しているこの時代に、使命を全うすべく、「あなたこそ生ける神の子キリストです」と信仰告白をした者たちと共に、神の国の鍵を与えられた教会の一員とされたことを覚えながら、聖霊の助けによって以下のことを宣証しつつ歩みます。

- ①キリストによる完全な救い
- ②真心からささげる礼拝
- ③キリストをかしらとした教会の交わり
- ④神の憐れみによるいやしと慰め
- ⑤信仰生活がもたらす祝福
- ⑥世界にも目を向けたとりなしの祈り
- ⑦神の愛に基づく社会への貢献

MEMO

単立 相模原ホーリネス教会

創立 2022年3月27日

主任牧師 土屋 和彦

牧師 石出 佳代子 牧師 土屋 淳子

252-0205 相模原市中央区小山 3-31-3

TEL&FAX 042(772)8910 e-mail church@bethels.info

ホームページ <http://www.bethels.info/>

